

ลมจากกรุงเทพฯ

バンコクの風



JSPS

BANGKOK

NEWSLETTER

2021 Vol.1

Emporium Department Store

(タイ・バンコク都)

JSPS BANGKOK

CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催	01	コラム	18
バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント	02	学術情報 (2020年4月-20213月)	21
JSPS同窓会情報	12		
特集「JSPS海外同窓会とのコラボレーションについて」	13		
JSPSバンコク研究連絡センター 前センター長 山下邦明			



センター長挨拶

バンコク研究連絡センターの活動報告書「バンコクの風」の2021年度第1号（2021年1－3月分）をお届けします。

コロナ禍のため、バンコクオフィスセンター長としての着任が昨年11月にずれ込みましたが、何とか無事半年間を過ごすことができました。この半年間、さまざまなオンラインでの活動が制限されるなか、各国のJSPS同窓会のセミナー開催をオンラインで支援してきました。対面で交流できないもどかしさがありますが、この半年間で、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ネパール、バングラデシュの同窓会主催のセミナーが開催され、講師紹介などを通じて支援を行いました。その中でもフィリピン同窓会の活動は活発で、2020年8月から毎月1度開催され、セミナーのテーマも、Coping with COVID-19 PandemicからLiving in the New Normal and beyondに変わり、コロナパンデミックの後を見据えた研究に対する活発な議論が交わされています。

2021年4月から、新しく国際協力員として土井智香子さん、そして研究補佐員としてPhanatchakorn Malaさん（ニックネームはNatさん）がバンコクオフィスのメンバーに加わりました。しばらくはこの4名体制でバンコクオフィスを運営していきますので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

2020年6月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長

大 谷 吉 生

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）で JSPS と JST が事業説明会 “Sharing information about research opportunity from Japan” を開催（2月9日）

2021年2月9日（火）、タイ国立科学技術開発庁（NSTDA）で、JSPS と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）とが、合同で事業説明会 “Sharing information about research opportunity from Japan” を開催しました。

説明会は、NSTDA Vice President の Dr. Lily Eurwilaichitr の挨拶で始まり、まず、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長が、JSPS の概要及びフェローシップ、論博事業および共同研究事業等の説明を行いました。

続いて、日本学術振興会の論文博士号取得希望者に対する支援事業（論博事業） 経験者の Dr. Kampanart Silva (Research Energy Innovation Research Group National Energy Technology Center) が、論博事業に対する支援事業の概要や応募方法について、東京大学でのご自身の経験談を交えながら、丁寧に説明を行いました。

次に、JST シンガポール事務所の小林義英チーフが、JST の沿革、SICORP や SATREPS など、JST の国際事業を説明しました。

最後に、e-ASIA JRP プロジェクトで国際共同研究を実施中の Dr. Siwanon Jirawatnotai (Department of Pharmacology, Siriraj Medical School, Mahidol University) から、研究プロジェクトの概要やこれまでの経験を踏まえた国際共同研究の重要性などについて説明がありました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jsps-th.org/2021/02/09/8951/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、バンコクで実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

Study in Japan Online Seminarに参加（1月19日）

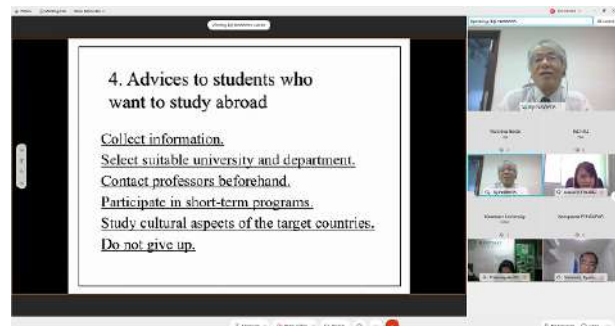
2021年1月19日（火）、カセサート大学が、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 拠点バンコク事務所との共催で「Study in Japan Online Seminar」が開催され、JSPS バンコク研究連絡センターが参加しました。

まず初めに、カセサート大学の Prof. Dr. Chamaipak Tayjasanant 学長補佐、Asst. Prof. Dr. Kampanat Pensupar 副学長から開会の挨拶がありました。

そして、カセサート大学で人気の高い農学、工学、日本語学の分野から、大谷センター長を含む以下の3人の日本人研究者が、①なぜ日本がその分野を追求するのに最適な場所・環境なのか、②大学、奨学金、留学のためのアドバイス、の2点について、それぞれの専門の立場から説明を行いました。

1. 縄田栄治

京都大学 ASEAN 拠点所長
専門：熱帯農業



2. 大谷吉生

JSPS バンコク研究連絡センター長
専門：ナノ粒子エアロゾル科学



3. 堤 良一

岡山大学社会文化科学研究科准教授
専門：現代日本語学



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

続いて、カセサート大学から、日本への留学経験のある以下の3人の研究者が、留学で得たもの、学んだこと、日本留学の良い点などについて説明を行いました。

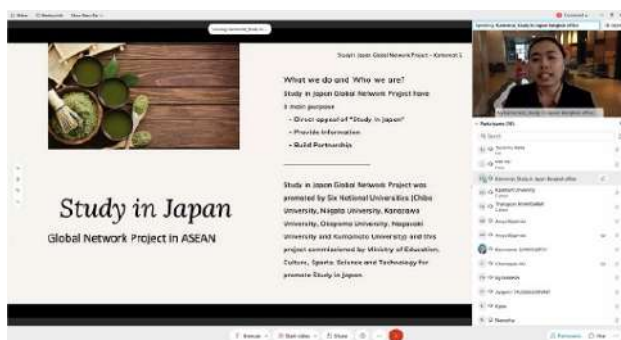
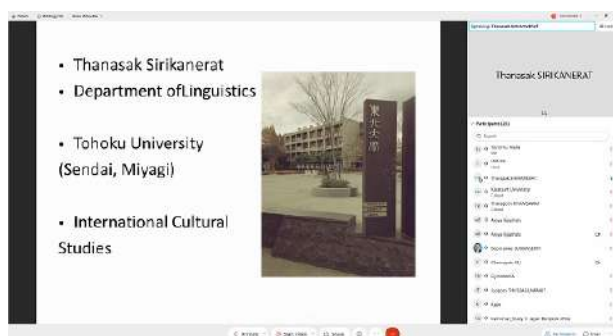
1. Dr. Jutiporn Thussagunpanit, Lecturer at Department of Horticulture, Faculty of Agriculture, Kasetsart University
(留学先：京都大学)



2. Asst. Prof. Dr. Pattara Leelaprute, Lecturer at Department of Engineering, Kasetsart University
(留学先：大阪大学)



3. Dr. Thanasak Sirikanerat, Lecturer at Department of Linguistics, Faculty of Humanities, Kasetsart University
(留学先：東北大学)



そして、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 拠点バンコク事務所アシスタントオフィサーの Ms. Kamonrat Shenwirattanapith が、日本の教育制度、留学資格、奨学金制度などについて説明を行いました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jps-th.org/2021/01/19/9051/>)

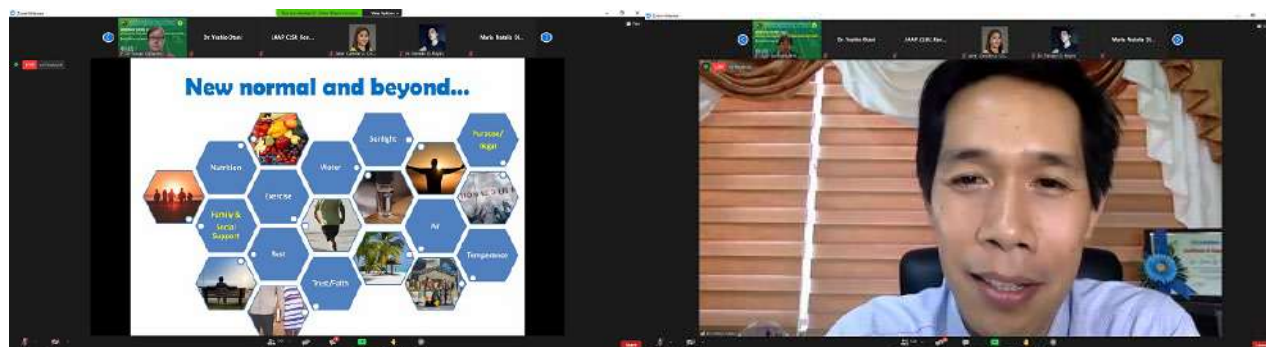
バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が WEBINAR SERIES 2021 (第 1 回) Web Lecture を開催 (1 月 25 日)

2021 年 1 月 25 日 (月)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web Lecture を開催しました。
この Web Lecture は、WEBINAR SERIES 2021 “LIVING IN THE NEW NORMAL AND BEYOND” の第 1 回
目で、セントラル・ルザン州立大学 (Central Luzon State University) 国際室の協力を得て行
いました。

このセミナーはタイ学術研究会議 (NRCT)、JSPS タイ同窓会 (JAAT)、そして JSPS バンコク研究
連絡センターが毎年 2 月に協力して開催しているものです。今年のメインテーマは「日タイにお
ける SDGs (持続可能な開発目標)」です。日本からの講演者が合わせて 5 名登壇し、出席者は兩
日とも 100 名を超えるなど、大変盛況となりました。

はじめに、JAAP の Dr. Danilda Hufana-Duran 会長の開会挨拶があり、続いて、セントラル・ルザ
ン州立大学 Dr. Edgar A. Orden 学長、Department of Science and Technology (DOST) の Dr.
Leah Buendia (Chair, Board of Judges Assistant Secretary)、JSPS バンコク研究連絡センタ
ーの大谷センター長の挨拶があった後、Dr. Orlex B. Yllano (Department of Biology,
College of Science and Technology Adventist University of the Philippines) が “NEW
START for the NEW NORMAL” と題した講演を行いました。



講演終了後は多くの質問が寄せられ、講演者は丁寧に質問に答えていました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Rowena Eguia から挨拶があり、盛会のうちに Web Lecture は終了しま
した。

この Web Lecture への参加者は約 150 名でした。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jsps-th.org/2021/01/25/8892/>)

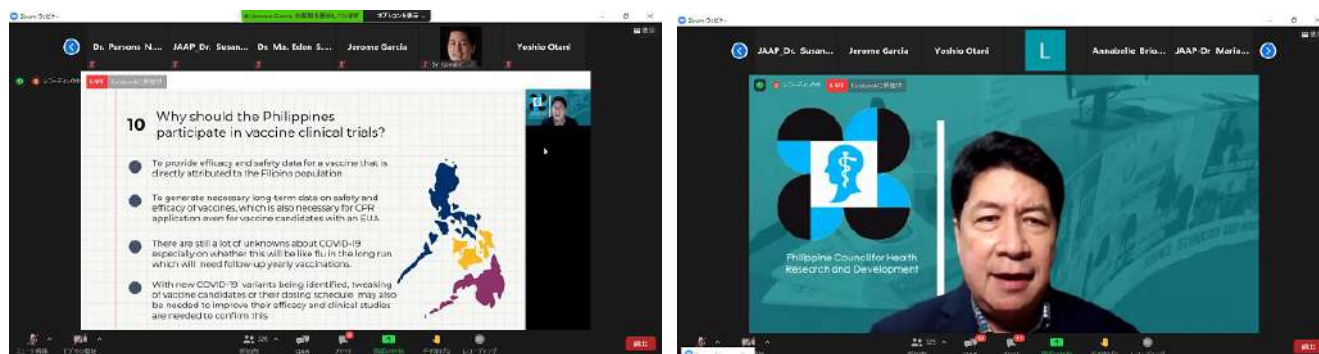
バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が WEBINAR SERIES 2021 (第 2 回) Web Lecture を開催 (2 月 27 日)

2021 年 2 月 27 日 (土)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が WEBINAR SERIES 2021 “LIVING IN THE NEW NORMAL AND BEYOND” の第 2 回目を、セントラル・ルザン州立大学 (Central Luzon State University) 国際室の協力を得て開催しました。

はじめに、JAAP の Dr. Danilda Hufana-Duran 会長の開会挨拶があった後、セントラル・ルザン州立大学の Dr. Renato G. Reyes (Vice President for Academic Affairs)、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長から挨拶がありました。

続いて、DR. JAIME C. MONTOYA (Department of Biology, Executive Director of the Philippine Council for Health Research and Development) が “COVID-19 Vaccines in the Philippines: What We Should Know” と題した講演を行いました。



この講演会には約 330 名の参加者があり、講演終了後はたくさんの質問が寄せられ、講演者は丁寧に質問に答えていました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Rowena Eguia から挨拶があり、盛会のうちに Web Lecture は終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jsps-th.org/2021/02/27/9034/>)

第 26 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) に出席 (3 月 8 日)

2021 年 3 月 8 日 (月)、第 26 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) が開催されました。

12 月に開催された前回の連絡会以降、タイ国内でコロナウィルスの感染が拡大し 1 月以降様々な感染拡大防止措置が講じられておりましたが、感染者が減少しバンコク都内における規制が緩和されてきたことから、在タイ日本国大使館において対面での開催となり 15 機関が参加しました。

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

今回は、連絡会での審議・連絡等のほか、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 拠点バンコク事務所の仁井勇佑留学コーディネーターによる「新型コロナウイルス感染症のなかでの日本留学海外拠点連携推進事業の活動」についての講演が行われ、コロナ禍でのこれまでの活動実績の報告とオンラインで実施するフェア・セミナーの課題と教訓、効果的だった手法などの説明がありました。

次回の連絡会は6月に開催される予定です。



文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 事務所バンコク事務所がアカデミックセミナー「SYUDY IN JAPAN」をマヒドン大学で開催（3月10日）

2021年3月10日、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 事務所バンコク事務所が主催するアカデミックセミナー「SYUDY IN JAPAN」がマヒドン大学の協力を得て Webinar で開催され、JSPS バンコク研究連絡センター、千葉大学、岡山大学が参加しました。

まず初めに、文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 事務所バンコク事務所の仁井留学コーディネーターから開会の挨拶があり、同事務所アシスタントオフィサーの Ms. Kamonrat Shenwirattanapith が、日本の高等教育制度、留学資格、奨学金制度などについて説明を行いました。

続いて、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷吉生センター長が、JSPS 国際事業の説明を行いました。

そして、千葉大学グローバル関係融合センターの石戸光教授による国際経済学の模擬講義と千葉大学の紹介がありました。



最後に、マヒドン大学卒業生で現在岡山大学自然科学研究科の大学院博士課程に在学中の Ms. Sasikarn Seetasang から、岡山大学の紹介そして日本留学にあたっての奨学金制度、コロナ禍において日本でどのような大学生活を送っているのかなどの説明がありました。

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

今回は、当初マヒドン大学での Face to Face セミナーの予定でしたが、最終的にオンライン開催となってしまいました。参加者は約 30 名でした。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jps-th.org/2021/03/10/9062/>)

JSPS バングラデシュ同窓会 (BJSPSAA) が第 12 回インターナショナルセミナーと同窓会総会を開催 (3 月 13 日)

2021 年 3 月 13 日 (土)、JSPS バングラデシュ同窓会 (BJSPSAA) が第 12 回インターナショナルセミナーを Webinar で開催しました。

今回のセミナーのテーマは“COVID-19 PANDEMIC: CRISIS TO HOPE”です。

はじめに、今回のセミナーのオーガナイザーである BJSPSAA の General Secretary でシェレバングラ農科大学 ((Sher-e-Bangla Agricultural University) の Prof. Dr. Tuhin Suvra Roy による開会挨拶、そして、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長から挨拶がありました。

そして、以下の 5 名の講師が、今回のテーマ“COVID-19 PANDEMIC: CRISIS TO HOPE”に関連し、それぞれの専門の立場から講演を行いました。

講演者と講演タイトルは以下のとおりです。

講演 1

講演者 : Dr. Shoeb Syed
Technical Director, Lallemand Inc,
Montreal, Canada

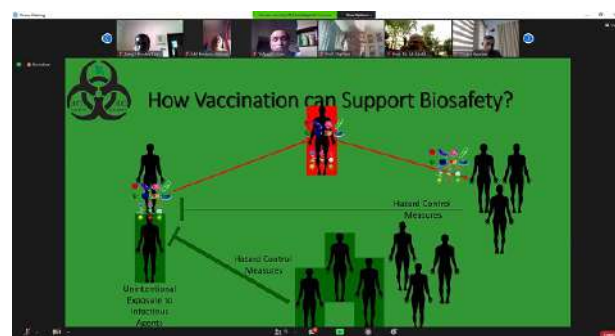
講演タイトル : COVID-19 Pandemic: Crisis to Hope



講演 2

講演者 : Dr. Asadulghani
Head, Biosafety, ICDDR' B, Dhaka

講演タイトル : Vaccination: The Ultimate Hope for
Pandemic Control

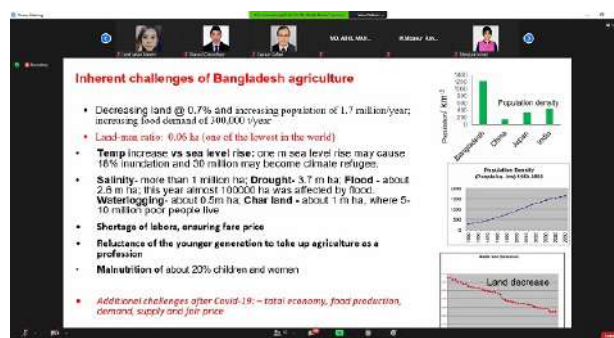


バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

講演 3

講演者 : Prof. Dr. Abdul Karim
BSMRAU, Gazipur

講演タイトル : COVID-19 Pandemic: Challenges
and Hope in Crop Agriculture



講演 4

講演者 : Prof. Dr. M. A. M. Yahia Khandoker
BAU, Mymensingh

講演タイトル : Global Impact and Mitigation
Strategies of Covid-19
Pandemic on Live Stock
Production



講演 5

講演者 : Prof. Dr. A. K. M. Nowsad Alam
BAU, Mymensingh

講演タイトル : Impact of COVID-19 Pandemic on
fisheries production,
marketing and export in
Bangladesh



講演終了後には、在バングラデシュ日本大使館の伊藤直樹特命全権大使、シェレバングラ農科大学 Vice-Chancellor の Prof. Dr. Md. Shahidur Rashid Bhuiyan から挨拶がありました。

セミナーには約 60 名の参加があり、最後に BJSPSAA 会長で Bangladesh Agricultural University Vice-Chancellor の Prof. Dr. Lutful Hassan から閉会の挨拶があり、セミナーは盛会のうちに終了しました。

なお、セミナー終了後には、参加者による同窓会総会が開催されました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jspm-th.org/2021/03/13/8970/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) が第 4 回 国際シンポジウムと同窓会総会を開催 (3 月 18 日)

2021 年 3 月 18 日 (木) に、JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) がインドネシア科学院 (LIPI) の協力を得て第 4 回 国際シンポジウム「Impact of Pandemic Covid-19 on the Human Life and Environment」を開催しました。

シンポジウムは、JAAI 会長の Prof. Wahyu Dwianto の開会挨拶で始まりました。続いてオープニングセレモニーが行われ、以下の 4 名の来賓挨拶がありました。

(来賓挨拶)

1. Prof. Bambang Brojonegoro (Minister of Research and Technology, Chief of the National Research and Innovation Agency, Republic of Indonesia (BRIN))
2. Dr. Laksana Tri Handoko (Chairman of LIPI)
3. 宮澤 武志 (東南アジア諸国連合日本政府代表部・在インドネシア日本国大使館一等書記官)
4. 里見 進 (日本学術振興会理事長)



Prof. Bambang Brojonegoro



Dr. Laksana Tri Handoko



宮澤 武志 一等書記官



里見 進 理事長

次に、講演会が開催され、以下の 3 名が講演を行いました。

基調講演

講演者 : Prof. Amin Soebandrio

Head of Eijkman Molecular Biology Institute

講演タイトル : Covid-19 and Its Vaccines



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

招待講演 1

講演者 : Prof. Atsuro Tsutsumi
Kanazawa University

講演タイトル : The Negative Impacts of Covid-19 on
Social and Economy Aspects



招待講演 2

講演者 : Prof. Hadi Susilo Arifin
IPB University

講演タイトル : The Positive Impacts of Covid-19 on
Environment Aspects



シンポジウムには約 90 名の参加があり、Q&A session では参加者から多くの質問が寄せられ、講演者は丁寧に対応していました。

最後に、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長から閉会の挨拶があり、盛会のうちにシンポジウムは終了しました。

シンポジウム終了後は、引き続き、JAAI 同窓会総会が開催されました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jsps-th.org/2021/03/18/8994/>)

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が WEBINAR SERIES 2021 (第 3 回) Web Lecture を開催 (3 月 27 日)

2021 年 3 月 27 日 (土)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が WEBINAR SERIES 2021 “LIVING IN THE NEW NORMAL AND BEYOND” の第 3 回目を、聖トマス大学 (University of Santo Tomas) の協力を得て開催しました。

はじめに、JAAP の Dr. Danilda Hufana-Duran 会長の開会挨拶があった後、聖トマス大学の Prof. Maribel G. Nonato (Vice-Rector, Office for Research & Innovation)、Department of Science and Technology (DOST) の Dr. Leah Buendia (Chair, Board of Judges Assistant Secretary)、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長から挨拶がありました。

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

そして、以下の2名の講師が、今回のレクチャーのテーマに関して、それぞれの専門の立場から講演を行いました。

講演者と講演タイトルは以下のとおりです。

講演 1

講演者 : Dr. Custer C. Deocaris
Senior Science Research Specialist, PNRI
Former Research Chief, CHED

講演タイトル : Pathways Towards a Stronger Academe-
Industry Partnership in Philippine
Higher Education: Results from CHED
World Café



講演 2

講演者 : Dr. Maria Natalia R. Dimaano
Professor, University of Sto. Tomas

講演タイトル : Engineering Education at UST in
Nurturing Learners Amidst New Normal
Due to COVID-19



この講演会には約70名の参加者があり、講演終了後はたくさんの質問が寄せられ、講演者らは丁寧に質問に答えていました。

最後に、JAAP副会長のDr. Rowena Eguiaから挨拶があり、盛会のうちにWeb Lectureは終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <https://jsps-th.org/2021/03/27/9043/>)

同窓会活動報告

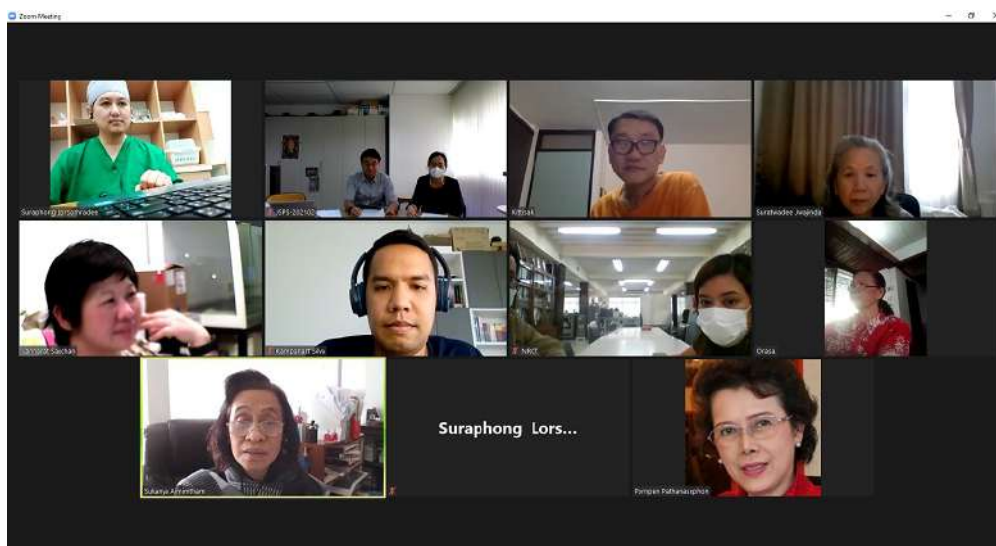
バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア・マレーシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナムでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2021 年 1 月 28 日（木）、2020 年度第 2 回目の JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会を Webinar で開催しました。

理事会では、主に以下の点について議論を行いました。

1. 前回（2020 年 12 月 3 日開催）の JAAT 理事会の議事録の承認
2. JAAT 年次総会および JSPS-NRCT-JAAT セミナーの開催について
3. 2019 年の JAAT 会計報告について
4. 2021 年度の活動計画について
5. その他

特に、3 月に開催を予定している JAAT 年次総会および JSPS-NRCT-JAAT セミナーに関しては、開催の可否、開催するとした場合の開催方法などについて活発な議論が行われ、その結果、3 月の開催は見送り、6 月以降に開催することで日程を再調整することとなりました。



次回の JAAT 理事会は、2021 年 4 月下旬に開催予定です。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：<https://jsps-th.org/2021/01/28/8917/>）

今回の特集では、2012年7月から2020年6月まで当センター長を務められた山下邦明様に、JSPS 海外同窓会とのコラボレーションについてご寄稿いただきました。

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製又は無断転載はお控えください。

JSPS 海外同窓会とのコラボレーションについて

JSPS バンコク研究連絡センター 前センター長
山下 邦 明

日本学術振興会（JSPS）は、その国際事業を通して日本と関わりを持った世界各国の研究者が、日本とその国の研究者間のネットワークを継続できるよう海外研究者コミュニティ（同窓会）形成支援や、同窓会設立後は、その活動を支援しています。10か国11か所にある海外研究連絡センター等を通して、海外の学術振興機関等との連携やシンポジウムの開催、また海外研究連絡センターは、日本の研究者や大学等研究機関の国際展開を現地にて支援しています。

JSPS が海外の研究者に提供する国際事業には、各国の提携機関との連携支援である「二国間共同事業」、多国間の研究者による「拠点形成事業（コア・ツ・コア）」、短期・長期の「日本への招へい事業」、「外国人特別研究員（いわゆるポスドク）招へい事業」、日本の ODA 対象国の研究者を対象にした「論文博士号取得支援事業（通称ロンパク）」などがあります。

国際的な研究活動を支援する事業一覧は、以下のサイトをご参照ください。

https://www.jsps.go.jp/programs/data/kokusai_boshuichiran.pdf

そして、これらの国際事業に何らかの形で関わった各国の研究者を会員の中心にした「JSPS 同窓会」を設立することに、JSPS は長年力を入れてきました。現在、世界に20の同窓会が設立されており、そのうちの6団体を、バンコクセンターが所管しています。アジア・太平洋地域には、その他に中国、韓国、インド、オーストラリアに同窓会がありますが、それらは、JSPS 本部もしくは北京センターが所管しています。各国の同窓会の詳細については、以下の JSPS ホームページをご参照ください。

https://www.jsps.go.jp/english/e-plaza/20_alumni.html

先述のように、JSPS 海外研究連絡センターは、日本の研究者や大学等研究機関の国際展開を現地にて支援することも任務の一つであり、また私自身バンコクセンター長としての8年間の任期中（2012－2020）に、4つの同窓会の設立に関与したこともあり、本稿の趣旨は、大学独自の同窓会に加えて、JSPS 同窓会とのコラボレーションを考えてみてはどうでしょうか？というご提言で、6つの同窓会をご紹介します次第です。

同窓会とのコラボレーションのメリットとしては、以下があるように思えます。

1. それぞれの国にある JSPS の連携協定を結んでいる学術振興機関（タイの NRCT、インドネシアの LIPI と DGHE、フィリピンの DOST など）と JSPS は、二国間共

同研究事業を支援しています。それへの応募の折に、それらの国の研究者は、日本でのパートナーを常に見つけていますし、日本の研究者も同じでしょう。同窓会のネットワークを通してパートナーを探してみてもいいでしょう？ 同じように、拠点形成事業（コア・ツ・コア）でもしかりです。

2. 各国の同窓会のメンバーから、よく聞かされたのは、教え子を日本に留学させたいが、情報が限られているということ。日本側としても同窓会のチャンネルから、そのような情報を得るのではないのでしょうか。

3. 各国に在る日本大使館は、日本との学術交流を進めるうえで、JSPS 同窓会を重要視しており、同窓会の「名誉会員」もしくは「顧問」という形で日本大使が就任されておられます。同窓会会員のみを対象にした「ブリッジフェローシップ（日本再訪問招へい事業）」の選考委員会には、毎回大使館の教育担当の書記官が加わっています。

■バングラデシュ

2009 年設立のバングラデシュ同窓会（BJSPSAA）ですが、2016 年 4 月首都ダッカで、武装集団がレストランを襲撃、日本人 7 名を含む 20 数名が犠牲になりました。そのため、日本外務省は、日本人のバングラデシュ、特に首都ダッカへの「不要不急の渡航」を控えるよう通達をだしており、まだ解除とはなっておりません。それに伴いこの 4 年間、同窓会主催の学術セミナーなどへの日本人研究者の派遣は中止となっておりますが、バンコクセンターは、開催経費などを支援しております。



会員の大半は、農業や理系が大半ですが、ノーベル平和賞受賞のモハメド・ユヌス博士が率いるグラミン銀行は、同窓会とも提携しており、社会科学分野での研究調査に今後期待できるでしょう。

JSPS の外国人特別研究員招へい事業（ポスドク）は年間 250—300 名の枠がありますが、毎年のように 20—30 名はこの国の研究者が採択されています。同窓会会員の日本の研究者とのネットワークの強さが現れていると思います。

同国と JSPS の連携協定の窓口は、バングラデシュ大学助成委員会（University Grants Commission）です。

■タイ

1978年に始まった「ロンパク（論文博士号）取得支援事業」によって、世界で900名以上が日本の大学から博士号を取得しますが、タイは200名弱で最大です。タイ学術会議（National Research Council of Thailand）の支援のもと、かつてロンパク同窓会がありましたが、それを発展的に解消し、2010年に「タイ JSPS 同窓会（JAAT）」として発足しました。NRCTの全面的な支援を得て、様々なワークショップ（論文作成など）を実施しています。



タイには、アセアン諸国で唯一の「日本の大学連絡会」（Japanese University's Network in Thailand-JUNThai）があり、それ由に、多くの日本の大学がタイの大学と連携協定を結んでいます。NRCT, JAAT とともに JUNThai を通して、日本の大学との連携を深化させること、そして優先領域として社会科学を望んでいるようです。

■フィリピン

フィリピン同窓会の設立は、2013年。タイに次いで、ロンパク事業による博士号取得者が多く、科学技術省（DOST）の支援により、長年「ロンパク同窓会」が活動してましたが、2013年に、その他の JSPS 国際事業の「受益者」を加えて、JSPS フィリピン同窓会（JAAP）が設立されました。



会員の専門領域は、人文社会科学、自然科学を含め多岐に渡っており、また日本の大学との連携は、日本全国をカバーしています。

多島国家であるため、事業の実施を各島でのローテーションで開催するとか、DOSTの財的支援を得て、遠隔地での科学教育普及のエクステンション活動を実施しています。

タイもそうですが、JAAPの役員や会員は、女性研究者が多いのが特徴です。

■ネパール

ネパール JSPS 同窓会 (NJAA) の設立は 2015 年。JSPS と連携協定を結ぶ学術振興機関がまだないため、二国間共同事業は対象外ですが、短期・長期の招へい事業、外国人特別研究員経験者が中心で、会員数も少ない同窓会です。分野としては、農学、土木工学の研究者が多く、そのためもあり、地方自治体や関連機関、日本で言えば JICA との密接な関係を築いているのが特徴です。

日本への留学希望者が急激に増えている現状を考えると、質のいい学生を推薦してもらうために同窓会と連携するのも一案かと思います。



■インドネシア

JSPS と連携協定を結んでいる「教育文化省 高等教育総局 (Directorate General of Higher Education, Ministry of Education and Culture (DGHE)) と「インドネシア科学院 (Indonesian Institute of Sciences (LIPI))」との協力を得て 2017 年に 17 番目の同窓会として設立されました。日本の大学独自の同窓会が多いのがこの国の特徴で、会員のダブリも多いと思います。

この地域の同窓会の規模 (会員数) としては最大で、専門領域も多岐に渡ってます。同窓会事務局は LIPI が所管し、様々な機関との連絡調整をしています。



ジャカルタに ASEAN 本部事務局が設置されており、日本政府 (文科省) 派遣の書記官も常駐し、ASEAN プラス 3 (日本、中国、韓国) の「科学技術協力委員会」 (日本からは、JSPS, JST もメンバー) が定期的に開催されてます。この立地的な優位性を活用し、同窓会としては、日本との連携強化を望んでいるように思えます。

■マレーシア

最も新しい同窓会で、2019年に20番目のJSPS同窓会として設立されました。設立に際しては、国立大学協議会（National University Council）の全面的な協力を得たこともあり、同窓会の会長や理事には学長及び副学長が就任しています。JSPSによる承認直後に、コロナ禍が拡大し、設立総会（2020年3月開催予定）の開催はできませんでした。



マレーシアの学術振興機関との連携協定をJSPSはまだ締結しておりませんので、二国間共同事業の実施はまだ先になろうかと思いますが、同窓会会長（前マレーシア科学大学 USM 学長）が、マレーシア科学アカデミー理事長に就任したこともあり、同窓会とアカデミーが一体となって、日本との連携を深化していくものと期待します。

同窓会事務局は、USM が担当しています。

センター職員によるコラム「東南アジア見て歩き」です。コロナ禍でなかなか遠出ができない状況ですが、今回は池田副センター長がバンコク近郊の様子をお届けします。

4月にバンコクセンター勤務を命ぜられ、やっとバンコクに赴任できたのが今年の10月。

14日間の検疫隔離を無事終えて、自由に外出できるようになった11月初旬の頃は、タイ国内のCovid19感染はかなり下火になっており、タイのコロナは終息期との見方が広がっておりました。

ところが12月中旬にバンコク近隣の水産市場でのCovid19感染のクラスター発生を受け、様々な規制が強化され、結局、タイ国外どころか、バンコク都から他県への移動もままならないまま、早くも5か月が経ちました。

これまでのバンコクの風のコラムを見ると、ASEAN各国の旅行記や、タイ国内の名所紹介などを行っていましたが、タイ国内であってもさすがに有名な観光地に行けない状況にあります。

そこで今回は、このような制限下でも訪れることのできるバンコク近郊の海上寺院「ワット・ホン・トーン」を紹介したいと思います。

ワット・ホン・トーンは、バンコクから約60キロ東のサムットプラカーン県とチャオチューンサオ県の県境付近にあります。

写真のとおり見事に海上に建っています。左側がメインの建物で3階まで自由に上がれます。



寺院に渡る棧橋にはベンチが置かれていて、ここに座っていると海風が本当に心地よくてつい長居をしてしまいます。今ではバンコクの大都会から離れて気分転換ができる私のお気に入りの場所になっていて、週末に時間を見つけては癒されに行っている状況です。





海に面したこの辺一帯は、もともと広大なマングローブの森で、ここホン・トーン集落の住民は、仏事の際にはお寺までマングローブの森の中を膝まで泥に浸かりながら数キロ歩いて行かなければならなかったようです。それを 1967 年に当時の集落長が近隣の寺院ワット・クロン・ダンと交渉し、この地で仏事が出来るように Sangha（僧侶のコミュニティ）を形成したことがワット・ホン・トーンの始まりとのことです。

当時、集落長はワット・クロン・ダンに寺院建設用地を譲る約束していたようなのですが、この一帯の土地が民間企業に売られてしまい、その用地の買戻し資金の調達のために村民が相当苦労したようです。何とか買い戻すことができて修道院が作られたのですが、その後、歳月を重ねるうちに寺院の土地が海岸浸食で海に沈んでしまい、現在の寺院が建設される時には約 3 分の 2 の土地が海に沈んでしまっていたため、仕方がなく、浸食対策と改修を行って海上に寺院を建設したのだそうです。海上に寺院が建っている理由はこういうことだったのですね。土地が海に沈んでしまったから寺院を海上に建設するなんて、おそらく日本ではあり得ないでしょうね。

ワット・ホン・トーンまでは、バンコク中心部からは、スクンビットロードを道なりに行けば車で 1 時間半くらいで辿り着きます。BTS スカイトレインで終着駅 Kheha まで行って、そこからタクシーを使うと交通渋滞を避けられるかもしれません。半日あれば参拝してバンコクに戻れますので、機会がありましたら是非行ってみてください。

【参考】 วัดหนองหลวง www.wathongthong.com (<https://wathongthong.wordpress.com/>)

※ワット・ホン・トーンに関するウェブサイトです。タイ語ですが翻訳機能を使えばほとんど理解できますので是非ご覧ください。

(記事・写真 副センター長 池田 勉)

■大学が学費面で親を支援

高等教育科学研究イノベーション省によれば、タイ国内52の大学が、新型コロナ大流行の結果として財政的に困難な状況に直面している学生の保護者を支援するための経費削減策を展開しているという。

新型コロナウイルスの大流行は、大学生の家族を含む社会の多くのセクターに広範囲の経済的影響をもたらしたと、Suvit Maesincee 大臣は述べた。彼は大学に協力を求め、こうした苦しい状況下にある学生とその家族を支援するための対策を始動させている。

この対策は、8月に始まる年度の第一学期の授業料減額など、家庭の大学関連費用の負担軽減を目的としている。Suvit氏によると、これまでに52の大学が幅広い支援策の導入に合意したという。

タマサート大学は8月末まで授業料未納分の支払いを延長、1500万バーツ相当の奨学金基金を設立し、チュラロンコン大学は学生に寮の保証金を返還することを約束した。

一方、カセサート大学は、授業料の分割払いと奨学金を提供し、他の大学は来学期の授業料を20%から25%割引することで合意している。

Suvit氏は、複数の大学では教職員のための独自支援プログラムを開始していると付け加えた。

また、2020年4月14日には、教育省が、重複をなくすための大学入試共通試験の一本化という考えを打ち出した。

Nataphol Teepsuwan 教育大臣によれば、高校3年生（12年生）の学生は現在、O-Net（全国統一学力試験）、GAT（一般適正試験）・PAT（専門適正試験）、National nine core subject examinations（9科目試験）の4つの大学入学試験を受けなければならないという。

大臣は、出願者の能力を総合的に評価できる4つのテストを組み合わせた単一試験の導入について検討している。

Nataphol氏は、単一のテストは大学進学適性試験（SAT）の形をとるべきだと述べた。このテストは、米国の大学入学手続きの一部であり、受験者の言語能力や数学的能力に加え、様々な分野での成果を測定するもので、適性というよりも、学生の学力と成果を測るものである。

（2020年4月15日 Bangkok Post 紙）

■タイの大学19校が「THE 大学インパクトランキング」にランクイン

タイの大学約19校が、国連の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）に照らし大学の研究、貢献度、管理責任を考慮した世界的なパフォーマンス評価尺度である「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション・インパクトランキング（THE 大学インパクトランキング）」にランクインした。

チュラロンコン大学は、SDGsの具体的な目標の一つであるLife on Land（SDG15）における持続可能性の追求が評価され、タイで1位、世界で45位にランクされ、総合的な持続可能性のパフォーマンスでは世界トップの101～200位にランクインされている。

2020年4月23日に発表されたTHE 大学インパクトランキング2020には、85カ国の766大学が含まれていて、チュラロンコン大学は100点満点中76.9点を獲得、アセアンでは6位にランクされている。

タイでは他に、コンケン大学とキングモンクット工科大学トンプリ校の2校が、持続可能性ランキングスキームで101～200位にランクインしている。

マヒドン大学は201～300位にランクイン。SDG17実施手段「目標達成のためのパートナーシップ」については、ランキング入りしたすべてのタイの大学が好成績を収めている。

Life on Land（SDG15）に関する限り、チュラロンコン大学の研究は、生物多様性、気候変動、水、食糧安全保障に加え、土地の生態系に対する政策や社会的支援に関連していると、チュラロンコン大学副学長・社会的貢献/国際社会貢献担当のPirongrong Ramasoota氏は述べた。

（2020年4月25日 Bangkok Post 紙）

■危機の影響で学生ローンが増加

新型コロナによる家計への影響を受けて貸付資金を増やし、と貸付基準を改善したため、財務省の学資ローン基金機構（Finance Ministry's Student Loan Fund : SLF）からより多くの親が融資を受けることが可能になる。

いくつかの貸付審査基準は、より多くの借り手を対象とするように調整され、学生もまた、自分の家族

が苦境を乗り越える助けとなるよう、より高い月々の手当を付与されることだろう。

通常、ローンの対象となる家族は、20 万バーツ以上の年間収入がない低所得者に限られている。しかし、「2020 年度は、その上限を年間 36 万バーツまで引き上げた」と、ファンドマネージャーの Chai-narong Katchapanan 氏は 2020 年 4 月 29 日に語った。

これにより、財務省は、新型コロナのロックダウン下での事業停止により収入が減少し、学校の授業料などの支出に苦慮している保護者をより多く支援できるようにする。

学資ローン基金機構では、2020 年はその数が 59,000 人に達すると予想される学生にローンを付与すべく 340 億バーツを準備している。

「貸付資金は元学生からの債務返済によるものである」と Chai-narong 氏は述べ、学資ローン基金機構には融資プログラムを支える十分な資金があることを保証した。

「私たちは 2018 年以来、国家予算を使用していません。」

Chai-narong 氏は、学生一人当たりの月々の手当を 600 バーツ増やすことにも合意していると述べた。

高校生は毎月 1,200 バーツ支給しているものを 1,800 バーツに増やし、通常 2,400 バーツを支給している専門学校生や大学生については 3,000 バーツに増額される。

Chai-narong 氏はまた、学生に対し、政府が推進している 10 の新ターゲット産業に関連する分野でローンを申請するよう奨励した。

2023 年までの融資プログラムは年利 0.5% で実施されるが、元金について、大学生は 30%、専門学生は 50% 減額される。

産業開発政策 (industrial development policy) は、東部経済回廊 (the Eastern Economic Corridor : EEC) を国家的な近代産業のハブとして確立するという国家の野心的な計画を支援することを目的としている。

その産業とは、次世代自動車、スマートエレクトロニクス、富裕層・医療・ウェルネス ツーリズム、農業・バイオテクノロジー、食品、産業用ロボット、物流・航空、バイオ燃料・生化学、デジタル、医療サービスである。

タイ政府は、チョンブリ、ラヨン、チャチェンサオの 3 県で 3 万ライの区画に及ぶ EEC で働く、より多くの専門家と熟練労働者を必要としている。

(2020 年 4 月 30 日 Bangkok Post 紙)

■チュラロンコン大学、世界大学ランキング 80 位以内を目指す

チュラロンコン大学は、2020 年初めて世界大学ランキングトップ 100 入りを果たし、2021 年は Academic reputation (学術関係者からの評判指標) でトップ 80 に入ることを目指している。

タイ最古の大学である同大学は、英国に拠点を置く教育・キャリアコンサルタント会社 クアックアレリ・シモンズ (Quacquarelli Symonds : QS) が 2020 年 7 月 8 日に発表した「世界大学トップ 100 (Academic reputation)」において 96 位にランクインし、2019 年より 12 ランクアップした。

チュラロンコン大学の Bundit Eua-arporn 学長代行は、世界中の 1,600 以上の大学がランク付けされている中、このカテゴリーでトップ 100 に入ったのは偉業であると述べた。

「2019 年は 108 位だったので、これは大きな変化です。私たちの 2020 年のランキングはタイの大学が獲得した中では、過去最高のランクです。」と彼は言った。

Bundit 氏によれば、チュラロンコン大学は、世界大学ランキングでトップ 100 入りするタイ初の大学になるという目標を定めてからこの数年間、学術研究の向上、優秀な研究者の採用に多大な努力を注いできたという。

QS は、世界 80 か所から、102,662 人の研究者と 51,649 人の雇用者を対象に調査を行い、その見識や意見が評価指標に反映して、1,000 の大学をランク付けしている。

大学は、①Academic reputation (学術関係者からの評判) 40%、②Employer reputation (雇用者からの評判) 10%、③Faculty-student ratio (教員と学生の比率) 20%、④Citations per faculty (教員 1 人当たりの論文被引用数) 20%、⑤International faculty ratio (外国人教員の比率) 5%、⑥International student ratio (留学生の比率) 5% の 6 つの指標に基づいて評価されている。

「2020年はAcademic reputationとEmployer reputationという点では良かったが、他の指標ではまだまだ改善の必要がある」とBundit氏は述べた。

チュラロンコン大学は6つの指標を合わせた総合ランキングでは、世界208位、アジア46位にランクされている。

「私たちは、世界トップレベルの大学とより多くのパートナーシップを組むことで、アップグレードし、リソースや人材がまだ不足している分野のギャップを埋めていく計画です。こうしたことが、留学生の受け入れを改善するのに役立つと信じています。」と語った。

（2020年7月13日 Bangkok Post 紙）

■ラチャマンカラ工科大学イサーンが医療目的の大麻研究を強化

ラチャマンカラ工科大学イサーン校（Rajamangala University of Technology Isan : RMUTI）コンケンキャンパスは、パートナーと提携し、医療目的の大麻、ヘンプ、その他のタイハーブの生産と加工の研究開発を行っている。

協力の概要は、グリーンワークス・アジアと北東部県のナーファイー・タンボン自治体（Na Fay Tambon Administrative Organisation : TAO）との間で締結された協定（MoU）のとおりである。

この協力には7つの目的がある。それは、①コンケンに特化した最適なヘンプ種を見つけるためのヘンプ種の研究と改良、②製品の量と質を向上させるためのヘンプ栽培方法の研究と改良、③タイのための新しいヘンプ種の研究と開発、④ウコン、レモングラス、ブラックガリゲール、ゴツコラ、菊を含むがこれに限らないタイのハーブ製品に含まれるカンナビジオール（CBD）の混合物の研究と改良、⑤工業加工と世界市場への輸出のためのハーブの研究と改良、⑥CBDを含む食品や飲料、栄養関連商品、ウェルネス/スキンケア用品、化粧品、香水の研究と開発、⑦バイオ循環型グリーン（BCG）経済モデルを利用したヘンプとタイの伝統的なハーブの研究と改良である。

コンケンのナーファイーおよびプーパー・タンボン自治体が、このMoUの下パイロットプロジェクトに参加する。これらのプロジェクトは、特定のルー

ルに沿って民間の個人や企業が商業目的でヘンプを栽培することを認める政府の法案に応じて実施されている。このプロジェクトは、地元の農家に利益をもたらし、彼らの生活全体の質を向上させることが期待されている。

MoUには、コンケン副知事のWoratas Thuleechan氏、RMUTIコンケンキャンパス副学長のAda Raimaturapong氏、グリーンワークスアジア最高経営責任者のPeter Whitmore氏、ローカルエンタープライズ・オーガニック・ナーファイーTAOの社長であり、ナーファイーTAOのチーフでもあるPakrit Thorngthaengthai氏が署名した。

「タイは、ヘンプ、医療用大麻、および関連分野が、最も急速に発展している国の一つである。しかし、この植物と作物を取り巻く科学、製品、法律、公共政策、そしてより広範な利益についての認識と教育が未だ非常に不足していることは明らかである。」とウィットモア氏は語る。

「グリーンワークスは、タイの人々にとって有益な、この新しくエキサイティングな産業のための法律制定に向けたタイ政府の広範な取り組みが、世界的な新型コロナパンデミック後の国の経済を活性化させ、好ましい変化をもたらす、生活を向上させるのに役立つと確信している。」

「貧困にあえぐ農村部の農民やコミュニティの社会的経済的な生活を向上させる可能性は非常に大きい。このエキサイティングな新分野におけるグリーンワークスのタイでの事業は、多くの地元の雇用を創出し、関連する事業部門、ウェルネス、ヘルスケア、税収、輸出、環境改善などの分野における更なる雇用を通じ、より広範な人口と社会に利益をもたらすことだろう。」

「私たちは、コンケンで出会ったすべての人に歓迎されていると感じている。とりわけナーファイーTAOとRMUTIのご指導とご支援に感謝したい。彼らと一緒に仕事ができることを光栄に思うし、共に末永く繁栄していく未来を楽しみにしている。」

（2020年7月18日 Bangkok Post 紙）

■コロナ渦で急がれる大学改革

人口構成の変化、急速な技術革新、グローバル化、コロナウイルスの大流行がもたらした急激な混乱により、大学は、その役割および学生や社会に提供する価値の再定義を余儀なくされている。

高等教育科学研究イノベーション大臣を辞任した Suvit Maesincee 氏は先週、辞意表明の直前にバンコク・ポスト紙に語る中で、大学が直面している課題、将来の大学はどのようなものになるのか、タイの大学は世界の教育の流動性の変化にどのように適応していくことができるのかについて、考えを共有してくれた。

進むべき道

Suvit 氏によれば、大学は現在、少なくとも 3 つの大きな課題に直面しているという。1 つ目は、国の人口構造の変化である。

「出生率が大幅に低下し、近い将来、大学は中等教育修了者に頼ることができなくなってくる一方で、タイ人の平均寿命は、健康関連のテクノロジーの発展により、伸びることが予想されている。」

Suvit 氏は、テクノロジーの崩壊を生き抜くためには、大学は中等教育修了者を呼び込むために競争するのではなく、既に雇用市場にいる人々の再訓練や再教育にもっと力を入れる必要があると考えている。

「人々が長生きし、長く働くようになるにつれ、テクノロジーの変化のペースに合わせて何度も何度も再教育を行う必要があるため、大学は顧客基盤を拡大し、より柔軟に対応、中等教育修了者の呼び込み以上のことに力を入れなければならないだろう。」

Suvit 氏は、学生が 4 年間かけて残りの人生を過ごすための学位を取得する場所としての大学という現在の伝統的なモデルは、将来的には無意味になるだろうと述べている。教育機関は、より柔軟性を持ち、学生ひとりひとりが自分の能力に最も適したペースで学習し、自分にとって最も有益な内容に取り組むことができるように、カリキュラムを整備しなければならないだろう。

大学は、学生を有能な労働者にするために必要なスキルを提供することに重点を置くのではなく、学生が生涯学習者になるための準備をするべきである。

「大学は、学生が思考力、分析力、評価力を身に付けることができるよう教えなければならない。大学は、学生のための学習空間へと変貌を遂げなければならない。」

Suvit 氏は、大学が直面している次の課題はテクノロジーの崩壊であると述べ、ロボット工学と人工知

能技術が教育分野を含むすべての産業を変革しつづけると続けた。

Suvit 氏によれば、オンライン学習により、学生はキャンパスにいなくても、直接授業に出席しなくても、インターネットを介して同等の教育を手頃な価格で受けることができるため、米国の大学の半数が今後数十年の間に閉鎖されるリスクがあるという。

「テクノロジーはいつでもどこでも学べるまでに進化した。もし大学がテクノロジーを活用した未来の教育機関への転換を急がなければ、時代に取り残されるリスクがある。」

「新型コロナの状況が良い例である。私たちは、世界中の学校や大学がいかに速くオンライン学習や遠隔学習の導入を余儀なくされたかを見てきた。しかも、人々はそれに慣れつつある。私は、オンライン学習の採用はパンデミック後の時代にも継続すると信じている。」と付け加えた。

大臣は、大学が避けて通れないもう一つの課題はグローバル化であると述べている。

「世界は既に一つの大きな経済圏となり、その内部では多くの小さな経済圏が互いにつながっている。大学は、学生がグローバルな視点を持つグローバル市民になるための教育をしていかなければならない。」

Suvit 氏は、近い将来、大学は学生数の減少に悩んでいる海外の大学との競争に直面することになると考えている。

「世界のトップレベルの教育機関は、より多くの顧客を見つけるために新しい市場にサービスを拡大していくだろう。また、才能ある人材が自由に流入してくるだろう。タイの大学がグローバルな舞台での地位を向上させることができなければ、学生は大学に背を向けることになる。」

未来への展望

Suvit 氏は、将来の大学はあらゆる年齢層の人々のための場所になると考えている。

「学生は自らカスタマイズ可能な学位を作成することができ、教師は学生のために学習計画を作成、学生がそれぞれの能力に最も適したペースで学習し、自分にとって最も有益な内容に取り組むことができるようになるだろう。」

「従来の『一人一人に合わせた』モデルは時代遅れであり、明日の教育機関の行動計画にはふさわしくない。」

「教師は学習のファシリテーターとなり、学生は自分自身の学習の旅路をよりコントロールできるようになるでしょう。」

Suvit 氏は、大学は学位と短いサイクルのコースが混合する形になっていくだろうと主張している。大学はまた、産業界のパートナーと協力の上、産業風土の転換に対応し、労働力のニーズの変化に迅速に対応する資格を共に築いていくことになる。

「フレキシブルな学習体験は、24 時間、週 7 日オンデマンドで利用でき、個々人の達成目標に合わせたものになるだろう。」

「学生は、自分のライフスタイルに合わせて、仕事や他の活動に合わせて学習することができるように、オンキャンパス、完全オンライン、混合型を途切れることなく切り替えながら、複数のモードで学習することができるようになる。」

ニッチ市場を求めて

Suvit 氏は、これからの大学は、独自のニッチ市場を見つけるか、専門性にマッチした特定分野に焦点を当てるべきだと述べている。

「様々な学位や学部を組み合わせた多目的大学というビジネスモデルは通用しないだろう。大学の管理者は、自分たちが望む道を選択し、教育や特定の種類の研究などの特定の分野に重点的に取り組む必要がある。」

「大学はまた、現実世界の問題を解決するプロジェクトで協力できるように、産業界のパートナーと共に自らを位置付けていかなければならない。大学は、地域社会の利益のために積極的に研究を応用するイノベーションの拠点となるだろう」と語った。

Suvit 氏はまた、大学は、教科の知識を最新の状態に保つようカリキュラムを整備し、時代遅れの専攻を閉め、政府の方針に沿った新しい専攻を開くよう要請してきた。

「現在のところ、タイのほとんどの大学は、財政的に健全な状態で学生を呼び込むことができるコースを提供している。」

Suvit 氏は、適応できず、コストに充てる十分な収入を得られない大学は、縮小、他の機関との合併、あるいは閉鎖を余儀なくされるだろうと述べた。

(2020 年 7 月 19 日 Bangkok Post 紙)

■キングモンクット工科大学トンブリ校「全世代向けの大学」を目指す

キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)は、タイが今、高校卒業者数の減少とテクノロジーの崩壊に直面していることを踏まえ、「“university for all ages” 全世代向けの大学」になるという目標を定めた。

KMUTT の学長 Suvit Saetia 氏は、出生率の低下およびテクノロジーの崩壊が タイの労働市場を変えつつあると述べた。タイではまもなく生産年齢人口が減少し、既に雇用市場にいる人々は、テクノロジーの変化に追いつくために再教育を受け、スキルアップをしなければならないだろう。

Suvit 氏は、これからの大学は、学習年齢制限のない、全世代向けの場になる必要があると述べた。

「今の大学は、高卒の学生だけを対象にしているわけではない。既に社会人となっている 3800 万人の人々にも注目していかなければならない。」と彼は語る。

Suvit 氏は、より安価でアクセスしやすい非学位やオンラインコースの需要はすぐに増加することを確認していると話す。再教育を受けたいと考える人々は、学位を取得するために何年も授業に出て無関係なプログラムを勉強するのではなく、短期コースに参加し、雇用主が求める特定のスキルを身に付けることを選ぶだろう。

こうしたトレンドに追いつくために、KMUTT は 2020 年 7 月 16 日に、学生、企業・業界関係者、一般市民という 3 つの主要ターゲットを対象に、e ラーニング、オンライン学習、教室学習で利用可能な非学位プログラムを開発すべく、東南アジア生涯学習センター (Southeast Asia's Lifelong Learning Center : SEAC) との協定書 (MoU) に署名した。

「これから、私たちは様々な世代の学生を迎え入れると同時に、研究プログラムやカリキュラムは学期や単元による制限がなくなる。一方で、試験に基づく評価は調整が必要になるだろう。」と Suvit 氏は述べた。

KMUTT と SEAC の協定は 2020 年 6 月 18 日から 2023 年 6 月 17 日までの 3 年間である。初年度は、Online Instructional Designer、Virtual Learning Facilitator、Data Scientist Facilitator といった新しいキャリアグループの学習過程をデザインするためのコラボレーションなど、国内でのパイロットプロジェクトが実施される。

また、ビジネススキルと知識で切実に必要とされている科学者や研究者のために特別に設計された非学位ビジネスマインドセット・カリキュラムが開発されるだろう。

2021 年には、KMUTT と SEAC は、近隣諸国への業務とサービスの拡大を計画している。

SEAC の最高能力責任者兼代表取締役の Arinya Talerngsri 氏は、この協定は需要と供給が一致しない低品質の労働力、失業、その他の雇用が抱える難題を緩和することができ、タイの経済と社会にプラスの変化をもたらすだろうと述べている。

「4～5 年かかる大学での勉強は過去のものになるだろう。今、人々は必要と感じたときにいつでも自由に学ぶことができる。適切なスキルがあれば、労働市場に参入することができる。スキルアップが必要だと感じたときはいつでも、また勉強に戻ることができる。つまりは、これが生涯大学と呼ばれているのだ。」と Arinya 氏は言った。

(2020 年 7 月 20 日 Bangkok Post 紙)

■タマサート大学長 ヨーロッパで表彰される

タマサート大学の学長である Gasinee Witoonchart 准教授は、最近、欧州経営開発財団 (European Foundation for Management Education: EFMD) のフェロー、名誉会員、終身会員に選出された。

彼女は、東南アジア地域では唯一の名誉会員である。

EFMD は世界的な非営利団体で、ビジネススクールのランキングの決定要因として認められている欧州品質改善システム (EFMD Quality Improvement System: EQUIS) の認定でも有名である。

フェローは、ビジネス知識と経営教育の発展への貢献に基づき選出される。

「EFMD は、グローバルなネットワークで活躍する可能性のある大学や企業の経営者のみを選出してい

るため、EFMD フェローに選ばれたことを大変光栄に思います。フェローに選ばれたことで、私とタマサート大学は、学生のためのビジネス知識やカリキュラムの改善において、世界をリードする他の大学とより密接に協力することができるようになる。」と Gasinee 准教授は述べた。

「EFMD と協力することで、トップ大学と知識を交換し、ビジネス教育やビジネス界の動向を常に把握しておくことができる。」と彼女は言う。

世界中のビジネススクールは、パートナーシップと学生交流プログラムの時代に突入している。

例えば、タマサート大学はフランス、オーストリア、イタリア、中国の大学とパートナーシップを結び、交流プログラムを実施している。

「毎年、交流プログラムを通じて 200 人以上の学生をこれらの大学に派遣しているが、その数を増やそうとしている。」

Gasinee 准教授は、タマサート大学は現在、Academic reputation (学術的な評判) の面で世界のトップ 300 大学へのランクインを目指していると述べた。

英国に拠点を置く教育・キャリアコンサルタント会社クアクアレリ・シモンズ (QS) が最近発表した Academic reputation では、同学は 561-570 位にランクされており、2019 年の 651-700 位から順位を上げている。

「私たちは、自らを高めるために、世界をリードする大学と、より多くのパートナーシップを形成する予定である。これが世界規模でのランキングアップにも役立つと信じている。」と彼女は語る。

また、近い将来、タイの大学はタイの大学と競争するだけでなく、外国の大学との競争に直面することになることを確信しているとも述べた。

(2020 年 8 月 17 日 Bangkok Post 紙)

■マヒドン大学 タイの「ニューノーマル」学習を開始

マヒドン大学の新入生たちは、いつもとかなり違う授業初日を迎えていた。

教師の講義中にメモを取るための最適な席取りを急

ぐ必要はもはやなく、食事の必要も、新しい友人と対面で会話をする必要もなかった。

学生たちは、大学での授業初日を完全なるオンライン教室で始めたわけであるが、これは本学史上初、1 年生全員を対象とした取り組みであった。同大学の学生は今や、新型コロナウイルスの世界的な大流行にもかかわらず、いつでもどこからでも自分の授業や教室にアクセスできるようになったのである。

デジタル技術を活用して学習を促進

マヒドン大学カンチャナブリキャンパス副学長代行・情報技術担当の Thatchavee Leelawat 氏は、技術を活用し、デジタル技術開発への道筋に向かって世界に追従していかなければ、教育は中断という大きなリスクにさらされている社会の最も重要なセグメントの一つであることを大学は認識していたと説明した。

崩壊を避けるべく、多くのパートナーからの強力な協力の下、高速光ファイバーWi-Fi を 介していつでもどこでも学習ができるよう、ニューノーマルな教育に対応するためのデジタル技術への巨額の投資が、様々な形で行われていると Thatchavee 氏は述べる。

マヒドン大学は、パートナーの中でもサイアム商業銀行と密接に協力し、2018 年から学内のデジタルエコシステムの構築を進めてきた。これには、大学のキャンパス内でのデジタルインフラの整備やアクティブラーニングなどのプロジェクト用に設計されたデジタル技術などが含まれている。

すべてのオンライン学習の取り組みは新型コロナウイルスの大流行前に開発されたもので、そのうちの1つが今学期に1年生全員が利用するバーチャルクラス学習プラットフォームの開発である。

ナコンパトム県、ナコンサワン県、アムナートチャルーン県にあるマヒドンの全キャンパスが Webex プログラムを介してバーチャル教室やカンファレンスにアクセスするための Wi-Fi ネットワークで完全に接続され、学習者と講師がリアルタイムで交流、知識を交換することができるようになり、ソーシャルディスタンスの状況下において効果的な対面授業の代わりとなることが期待されている。

学生と大学を結びつけるもう一つのデジタルツールは、スマートフォンを介し個人のパスワードで簡単

にアクセスできる、ニュースや情報更新のための大学のオンラインコミュニティ「WeMahidol アプリ」である。

「新型コロナにより、私たちは、いつでもどこでも勉強するという目標を達成するよう 奨励されている。大流行前にデジタルプラットフォームを構築した大学のビジョンのおかげです。」

「学習は教室の中だけではない、それが今後、教育の重要なニューノーマルとなるだろう。それはいつでもどこでも起こり得るものである。」と彼は言い、次の課題は、すべての職員がスマートなデジタル技術に精通し、効率的に活用できるように、どう養成していくかであると付け加えた。

困っている学生にインターネットのパッケージをプレゼント

予期せぬ感染症に万全の対応ができたにもかかわらず、Thatchavee 氏は、低所得の家庭出身の一部の学生が、財政的な問題から高速インターネットパッケージを購入できず、オンライン教室へのアクセスができないという困難に直面していることを認めた。

しかし、マヒドン大学は、すべての学生が平等に教育を受けられるよう支援する必要性を認識し、そのために、支援が必要な 7,000 人の登録学生にインターネットパッケージを提供、他の学生と同じようにオンライン授業を受けられるようにしてきた。

同大学によれば、4 月から 6 月までの間に、Webex プログラムを利用して、65,000 以上のバーチャル教室/会議を作ったという。

大学は、新型コロナの世界的な健康危機の中で試されてきた国の教育のニューノーマルにとってのケーススタディとなる。国全体の教育システムは今、教育をめぐる古い考えの 学校を破壊する類まれなものへ変貌を遂げようとしている。

デジタル技術こそが、教育の未来の答え

最近開催されたメディアメーカーに関する大学のセミナーで、高等教育委員会の委員長を務める Udom Kachintorn 氏は、デジタル技術によって推進され、目まぐるしく変化する産業のトレンドに対応すべく、教育の未来に焦点を当てたスピーチを行った。

「大学はテクノロジー主導の混乱に直面している。現在のカリキュラムでは、超関連性の高いスキル、プロフェッショナルスキル、ライフスキル、デジタルスキル、英語力、そして組織を動かす姿勢や価値観を持った人材が必要とされている現状に応えることはできない。」と、セミナーで彼は語った。

「それが教育のニューノーマルである。学習が教室だけで確立されるのではない今、大学はデジタルプラットフォームに投資し、講師のスキルを磨くことで生き残っていく必要がある。」

しかし、オンライン学習だけが教育のニューノーマルではなく、実際にはオフライン教育によるサポートも必要であることを彼は認めている。なぜなら、オンライン教育では、創造性を発揮するために非常に重要な、学生の情緒的成熟度を高めることができないからである。世の中がオンライン技術の発展に注目する中で、人間の情緒的成熟度を見失わないようにバランスを取ることは大きな課題である。

(2020 年 8 月 31 日 Bangkok Post 紙)

■タイの大学の世界ランキング

世界大学ランキング 2021 には、タイの大学 17 校がランクイン、そのうちチュラロンコン大学、マフールアン大学、マヒドン大学が 800 位以内に入った。

キングモンクット工科大学トンブリ校は 801 ~ 1,000 位、その他の 13 大学は次の層である 1,001 位以下にランクインしている。

The Times Higher Education World University Rankings 2021 には、93 の国と地域にまたがる 1,500 以上の大学が含まれており、これまでで最大かつ最も多様性に富んだ調査となっていると報告書は述べている。

ランキングは、教育 (Teaching)、研究 (Research)、知識の伝達 (Knowledge transfer)、国際的な展望 (International outlook) の 4 つの分野を網羅する 13 のパフォーマンス指標に基づいている。

2020 年のランキングは、1,300 万件の研究論文から 8,000 万件を超える引用を分析、世界中の 22,000 人の学者からの調査回答が含まれている。

オックスフォード大学が 5 年連続で首位に輝いた。また、中国の清華大学が 2011 年に開始された現行

の方法では、アジアの大学として初めて 20 位以内にランクインしている。

オックスフォード大学の主要なライバルであるケンブリッジ大学は 6 位に後退した。シンガポール国立大学は 25 位で、東南アジアの大学では最上位に位置している。

米国は、カリフォルニア大学バークレー校が順位を 6 つ上げて 7 位になり、トップ 10 の中に過去最高の 8 校が入るという記録を打ち立てたものの、トップ 200 以降の米国の大学には低迷の兆しが見えると、ランキング機関は述べている。

トップ 10 はオックスフォード大学、スタンフォード大学、ハーバード大学、カリフォルニア工科大学、マサチューセッツ工科大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学バークレー校、エール大学、プリンストン大学、シカゴ大学である。

一方、2020 年のランキングには新たに 141 校がランクインしており、そのトップはフランスのパリ・サクレイ大学 (178 位タイ) となっている。

ランキングから、インドは初ランクインが最も多く (14 校)、その結果、過去最高のランクイン機関数 (63) を誇っていることが分かる。

(2020 年 9 月 4 日 Bangkok Post 紙)

■マヒドン大学がエリート医療プログラムを提供

マヒドン大学では、タイで初めて医療マネジメントに焦点を当てた国際コースを提供している。

マヒドン大学経営大学院 (College of Management Mahidol University : CMMU) の Duangporn Arbhasil 学長は、「国際コース “Doctor of Medicine (MD) and Master of Management (MM) – healthcare and wellness management”」は『MD/MM』が統合された初めてのケースである」と述べた。

彼女は「このコースは CMMU とラマティボディ病院医学部との間の共同プログラムである。」と付け加え、カリキュラムは「前臨床クラスと臨床クラス」を伴う、6 年間の医学学士号と、公立病院や民間病院、ヘルス・ウェルネス施設での実践的な学習を中心とする 1 年間の経営修士号から成り、プログラムで勉強する医学生は、両方の機関から 2 つの学位を取得することになっているとしている。

「このプログラムは、プロセス、経営、管理について考える潜在能力を持った、統率力のある医師の育成を目的としており、タイの組織や公衆衛生システムへの建設的な変化を創造するのみならず、国内および世界的な医療危機にも取り組んでいきたい」と学長は語った。

ラマティボディ病院医学部と CMMU は、メディカルエグゼクティブマネジメントの学位を取得するためには、学生がタイの医療業界を牽引していく戦略の立案に携わっていく必要があるとの意見で一致している。

両機関での 2020 年 11 月末の願書受付準備が整うまでに、20 名の学生を対象としたパイロットプログラムが実施される予定である。

(2020 年 9 月 5 日 Bangkok Post 紙)

■プーケット島の医療ハブ化に向けて

プリンス・オブ・ソンクラ大学は、プーケットを地域住民や観光客に質の高い治療を提供できる医療ハブにする計画を進めている。

Pun Thongchumnum 副学長は、2020 年 10 月 16 日に開催されたフォーラムで、大学は地域を医療ハブに開発し、治療を求める住民や観光客を呼び込む計画であると語った。

フォーラムは県内のホテルで開催され、多方面からの人々が出席した。

この計画が内閣により承認されれば、癌や心停止のような複雑な症状の治療法の開発が進み、その治療法を管理できる医師も育つことになると Pun 氏は言う。

計画が進めば、プーケットやアンダマン沿岸の地域住民が、現在は地域の保健センターで対応できないような治療を、自宅近くで受けることができるようになる。

この計画は、患者の治療費や交通費の削減も目的としている。

プーケットは、医療ハブとして、医療を求める外国人観光客を誘致することで経済の活性化を目指していくことになる。

Pun 氏によれば、プーケットはまた、より多くの医

療を必要とする国内の高齢者層にも対応できるようになるという。

経営革新開発センター (Management Innovation Development Center : MIDC) は、今後更なる措置を決定していくことになる。フォーラムの出席者には、プロジェクトについて意見を述べる機会が与えられる。

Pun 氏は、プロジェクトが、外国人患者のための長距離医療輸送を備えた三次医療とハイテク治療を提供する大学病院、世界標準の歯科病院、高齢者ケアやスポーツセラピー、伝統医療を行うウェルネスセンター、医師、薬剤師、看護師、伝統医療を行う医師、メディカルラボの科学者を輩出する医学系専門校の 4 つの部分に分けられると説明する。

大学は、11 月 2 日と 3 日に予定されている県の閣僚リモート会議でプロジェクトの予算を提案することになっている。

Pun 氏は、大学では、職員が医学教育を取り上げ、複雑な疾患の治療法を改善する一方で、ワチラプーケット病院と連携していくと述べた。

大学の経営科学部長 Theerawat Hungsapruerk 助教授は、9,036 人の地域住民が高度医療を受けるために他の地域へ 13,542 回のフライトを行ったと述べた。

2030 年には、タイの人口の 19%が高齢化し、2050 年、タイは高齢化社会として分類されるだろう。

この状況に備えるためには、タイは是が非でも、より多くの医者およびケアワーカーを養成し、より多くかつより優れた医療機器を調達する必要があることを示している。

(2020 年 10 月 17 日 Bangkok Post 紙)

■コンケン大学 新しいオンライン英語プラットフォームを試験的に導入

コンケン大学教育学部の学生には、来学期に、学習者グループとしては初めて、英語力の向上を目的とした新しいハイブリッド・オンライン・プラットフォームが試験的に導入される。

2020 年 11 月 9 日、コンケン大学、タイ・カナダ経済協力財団、ブレインクラウド・ラーニング社が、学生とプロの教師の英語力を向上させるための学術協力協定書に署名し、大学生の英語学習能力を向上

させるための大きな一歩となることが期待されている。

ブレインクラウド・ラーニング社は、ケベック州とタイに拠点を置く e ラーニング企業で、最先端のテクノロジーインフラと、神経言語学を用いた言語習得の加速化と促進を目的とする学習プラットフォームを開発した。

また、ケベック州で高く評価されている ESL カリキュラムに基づいたプログラムを提供 するため、ネイティブの英語講師と、現地のタイ人教師と学生で構成された教室とをライブでつなぐ。

協定書署名式に立ち会ったタイ、ラオス、カンボジアのカナダ大使 Sarah Taylor 氏は、テクノロジーは現代の英語学習に役立つと述べ、これまでタイの学生は英語を話す教師とコミュニケーションをとる機会が少なく、ネイティブスピーカーから聞いたり学んだり する機会が少なかったかもしれないが、今では、この最先端のテクノロジーを使い、コミュニケーション能力を以前より向上させることができるようになったと付け加えた。

大使によれば、政府は「Teach in Thailand」プロジェクトを導入する予定であり、英語を 母国語とする国から約 1 万人の若い卒業生がタイの学生に英語を教えるために雇用されるという。

カナダからの若い卒業生がプロジェクトから恩恵を得ることになるだろう。

タイ・カナダ経済協力財団の会長チンチャイ・ハーンジェーンラック氏は、このプロジェクトは、タイの学生は英語のスピーキングとリスニングの能力が低いという問題に取り組むために設計されていると述べた。

学生とプロの教師の英語能力向上プロジェクトは、5 年前にヤラー県の僻地の若い学生を対象に初めて開始され、今では、より高い教育を受ける学生がテクノロジーを駆使して、より効率的に英語を学ぶことができるようになったという。

教育学部の少なくとも 30 人の学生がコンケン大学のパイロットプロジェクトに参加し、バンコクに拠点を置くオンラインネイティブスピーカーの教師と、授業中に学生と同席 するクラスの講師と共に、スピーキングとリスニングの能力を伸ばすことができるようになる。

コンケン大学アセアン教職研究開発研究所の所長

Maitree Inprasitha 氏は、このプログラムは現在のところ、卒業後に英語を教える予定の奨学生のみが対象であると述べた。

これは、学生達が教えることに自信を持てるよう英語のスキルを磨く必要があるターゲット層だからである。

彼は「私たちはこのプロジェクトに満足している。新型コロナの期間中は大いに役立った。ネイティブの英語教師を見つけるのが簡単になり、これまで生徒達の効率的な英語学習を妨げていた制限をすべて減らすことができた。私たちは、このプログラムが学生の英語でのコミュニケーション能力を高めると考えている」と付け加えた。

一方、ブレインクラウド・ラーニング社の創設者で CEO の Tan Saomboonsrub 氏は、深南部の僻地に住む学生への機会提供に興味を持っていると述べ、そうした子どもたちがより効果的な方法で英語を学ぶ機会を与えられるべきだと語った。

同社は、県内 19 の学校と協力して、ネイティブスピーカーの英語教師とオンラインで 直接コミュニケーションをとる機会が与えられた幼い子どもたちに英語の授業を提供している。

彼は「フィードバックは良好である。私たちは生徒が英語を学ぶのを助けるだけでなく、生徒に英語を教えるための教師の自信を高めるのにも役立っている。そして今では、より良いフィードバックが得られるよう、より高いレベルの生徒にもプログラムを拡大している。」と付け加えた。

(2020 年 11 月 13 日 Bangkok Post 紙)

■大学、ウイルス抗体検査キットの提供を開始

わずか数滴の血液で、15 分以内に高精度の結果を得られることが保証されている新しい新型コロナウイルス抗体検査キットが量産され、タイ国各地の病院や医療機関に提供されていると、開発を担当した研究チームが 2021 年 1 月 17 日に発表した。

プリンス・オブ・ソンクラ大学 (PSU) 医療技術学部の Theerakamol Pengsakul 氏によれば、このキットは、通常は結果が出るまでに 3-4 時間かかる鼻腔ぬぐい液と同程度に正確な新型コロナウイルス検査結果を出すことができるという。

彼女は大学の研究チームの責任者で、2 つの企業と

協力して「KBS Covid-19」という新しい検査キットを開発した。

チームが約1年かけて開発したこのキットは、2019年末にアメリカ食品医薬品局（FDA）の認証を受けたという。

この検査キットは、新型コロナウイルスによる感染症と戦うために人体内で生産される、IgM と IgG という2種類の抗体を検出することができる。

この検査では、1回目の検査から1週間後に再検査が必要となる。1回目の検査結果が陽性、陰性であるかにかかわらず、新しい検査キットを使って、1回目の検査結果を確認するのである。

なぜなら、ウイルスに感染しても、すぐには人体に抗体ができないことがあるためである。

また、新型コロナウイルスの抗体を持っていることが判明し、ウイルスの陽性反応が出た人は、治療を受けて病気から回復して間もないか、新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種して間もない可能性もあるという。

Theerakamol Pengsakul 氏によれば、タイ国内各地の多くの病院や医療機関が500万個以上の新しい検査キットをにしているという。

ケストレル・バイオ・サイエンス（タイ国）社とマスター・ラボズ・インコーポレーション社は、それぞれ本製品の製造と販売を独占的に許可され、1日に約10万個のキットを供給することができるとのことである。

(2021 年 1 月 18 日 Bangkok Post 紙)

■大学、イノベーション主導を歓迎

タマサート大学は2021年2月20日、人々の生活向上を目的とした3つのイノベーションプロジェクトを発表した。同大学は技術開発とイノベーションを通じて社会を牽引することを誓っている。

学頭の Gasinee Witoonchart 准教授は、3つの構想は国内外で評価されており、大学はこの分野の探求と投資を誇りに思っていると述べた。

1つ目の構想「タマサートモデル」は、草の根経済の強化を目的としたイノベーションを生み出すための学習プロジェクトである。商学・会計学部が開発

したこのイノベーションは、AMBA（MBA 協会）とBGA（ビジネス大学院協会）の「ベスト生涯学習イニシアチブ2021」部門で銀賞を受賞した。

2つ目のイノベーション「スペースウォーカー」は、衰弱性疾患に苦しむ人々を支援するために設計された歩行補助器具である。工学部が開発したこのデザインは、技術革新型企業開発基金により、人々の生活を向上させるだけでなく、輸入品への依存度を低減させることに最も成功したイノベーションとして選ばれた。

3つ目の構想は、シリントーン国際工学部（SIIT）が開発したフェイスマスク認識技術である。フェイスマスクを着用しているかどうかを検知することで、特定の地域における公衆衛生ガイドラインの遵守状況や介入の必要性を判断する。このイノベーションは、高等教育科学研究イノベーション省とCovid-19 状況管理センター（CCSA）により、新型コロナウイルス感染症の蔓延を抑制するのに役立つ技術として選定された。Gasinee 准教授は、これら3つのプロジェクトは、「人々のための大学」を目指す大学の決意を示すものだと述べている。

(2021 年 2 月 17 日 Bangkok Post 紙)

■英国、大学生にまだまだ人気

ブリティッシュ・カウンシル（英国文化振興会）と在バンコク英国大使館によれば、タイの高等教育機関の学生にとって最も人気のある渡航先は英国であるという。

ブリティッシュ・カウンシルの教育サービス責任者である Uraivan Samolee 氏は、2018/2019 年度に英国に滞在したタイ人大学生は6,880人であったと述べた。

この数字は、同年に英語圏の国で学んだタイ人学生総数15,457人の45%に相当し、2位は米国で5,451人（35%）、3位はオーストラリア2,528人（16%）、4位はカナダ598人（4%）だったという。

その数字から、英国のタイ人学生に人気のある学科のトップ5は、ビジネスマネジメント（60%）、法律（10%）、工学・技術（6%）、社会（5%）、クリエイティブアート・デザイン（3%）であることがわかった。

Uraiwan 氏は最近、タイの学生に英国の教育を紹介する記者会見でこの数字を発表し、「パンデミックにもかかわらず、英国はタイの学生にとってナンバーワンの高等教育機関であると確信しています。英国の学術・研究は世界トップクラスです。」と述べた。

また、「すべての大学は、留学生を受け入れるために努力しており、学生、スタッフ、地域社会の安全を守るための行動手順を備えています。」と語り、「2021 年は、修士課程の学生を対象とした GREAT 奨学金が 28 件あり、それぞれ最低概算額 412,000 パーツ、合計で 11,500,000 パーツ以上が用意されています。」とも述べた。

英国の Alexandra McKenzie 副大使は、パンデミックにより世界が直面している試練にもかかわらず、英国は英国の大学に入学する留学生を支持していると述べている。

「状況をよく見て、必要に応じ、英国で勉学に励むすべての留学生のためになることを講じるつもりです。」と彼女は言う。

ブリティッシュ・カウンシル代表、Helga Stellmacher 氏は、「ブリティッシュ・カウンシルは、文化交流と教育の機会を提供する国際組織です。芸術・文化、教育、英語を通じて、英国とタイの人々の間につながり、理解と信頼を築いています。」と述べた。

(2021 年 2 月 21 日 Bangkok Post 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター アクセス&コンタクト

アクセス

高架鉄道 (BTS) Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分

地下鉄 (MRT) Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩 5 分

コンタクト

1016/3, 10th floor, Serm-mit Tower, 159
Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

Tel +66-2-661-6533 Fax +66-2-661-6535

Website: <http://jsps-th.org> Email: jspsbkk@jsps-th.org

facebook: JSPSBKK



■ 表紙写真紹介



(タイ、バンコク)

コロナ禍でなかなか出かけることができませんが、バンコク市内にも見どころがたくさんあります。

今回の表紙では、バンコクのデパート「エンポリアム」入口のランタン飾りをご紹介しました。

エンポリアムの入口はシーズンによって飾り付けが変わり、写真好きのタイ人が列を作って撮影している様子をよく見かけます。

タイの旧正月を祝う今回の 4 月の飾りにおいても同様、多くの人々が立ち止まって写真を撮っていました。

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」

監修：大谷吉生 編集担当：池田勉、土井智香子